

2012年5月15日

< ニュースリリース >

米国研究製薬工業協会

米国の研究開発志向型製薬産業が約 300 種類のワクチンを開発中

米国研究製薬工業協会 (PhRMA: Pharmaceutical Research and Manufacturers of America、本部: 米国、ワシントンDC) は、米国のバイオ医薬品研究企業が開発中のワクチンは、約 300 種類であると発表しました。これらのワクチンのうち、170 種が感染症、102 種ががん治療、8 種が神経障害治療予防または治療用ワクチンで、すべて開発段階後期 (臨床試験中または米食品医薬品局による審査中) にあります。

米国保険福祉省の疾病管理予防センター (Centers for Disease Control and Prevention) の最近の研究によれば、長年にわたってワクチン接種が推奨されてきた痘瘡や麻疹などの 9 種の感染症の発症率が、90 パーセント以上減少しています。ワクチン接種によって死亡率および罹患率が減少すると、通院や入院の回数が減り、さらに医療費の削減や、欠勤日数の減少、生産性の向上につながります。

ワクチンは、これまでも、小児麻痺やジフテリア、百日咳、風疹、流行性耳下腺炎など、かつて米国でよくみられた感染症の予防に大きな成果をもたらしてきましたが、新しいワクチンは、がんを含むさらに多くの疾病の予防を可能にしています。たとえば、子宮頸がんやその他のがんを発症させるヒトパピローマウイルス (HPV) 4 種に対する最初のワクチンが数年前に承認されています。

PhRMA のジョン・カステラニ理事長兼 CEO は次のように述べています。「ワクチンは、バイオメディカルサイエンスと公衆衛生における、最も大きな成果のひとつと言えます。過去数十年の間に、ワクチン接種は、老若男女に影響を及ぼす伝染病や死に至る病気を予防し、場合によってはほぼ根絶させるなど、世界中で多くの命を救い、大きな貢献を果たしてきました。ワクチン接種は、公衆衛生を向上させ、また経済的な道理にも大いにつながっています。多くの開発中の新薬候補は、より健康的で生産性の高い未来へ大きな希望をもたらすでしょう。」

現在開発中のワクチンには、以下のものが含まれます。

- 膵臓がん治療のための遺伝子組換え型ワクチン
- HIV ウイルスに対する免疫応答を上昇させる治療ワクチン
- 髄膜炎の主要原因である髄膜炎菌性疾患から乳幼児を守るためのワクチン
- アルツハイマー病の免疫療法ワクチン
- マラリア予防のための組換え型ワクチン

科学の進化により、有望な治療ワクチン、および新しい感染症予防、両領域での開発の可能性がますます高まってきました。開発の過程は極めて複雑ですが、新しいワクチンの開発には、ゲノム科学など他の科学分野の進歩が活用されています。

- PhRMA Japan

PhRMA Japan は、米国の研究開発志向型製薬企業の日本法人で構成されており、画期的新薬が開発できる環境や患者さん中心の医療制度の確立に向けて活動を続けています。加盟企業は、アボット・ジャパン株式会社、アムジェン・デベロップメント株式会社、MSD 株式会社、日本イーライリリー株式会社、バイオジェン・アイデック・ジャパン株式会社、ファイザー株式会社、 Bristol-Myers Squibb 株式会社、ムンディファーマ株式会社、ヤンセンファーマ株式会社(五十音順)の9社です。2012年、日本オフィス開設25周年を迎えました。

- 米国研究製薬工業協会 (PhRMA)

PhRMA は、米国で事業を行なっている、主要な研究開発志向型製薬企業とバイオテクノロジー企業を代表する団体です。加盟企業は新薬の発見・開発を通じて、患者さんがより長く、より健全で活動的に暮らせるよう、先頭に立って新しい治療法を探求しています。加盟企業の新薬研究開発に対する2010年の投資額は約494億ドルで、製薬業界全体の投資額は過去最高の674億ドルに達しました。

- PhRMA ホームページ: <http://www.phrma-jp.org>
- 米国 PhRMA ホームページ: <http://www.phrma.org>

【本件に関するお問い合わせ】
PhRMA 広報事務局 (MSL Japan 内)
担当: 大澄 / 池井
Tel: 03-5719-8938 Fax: 03-5719-8919
E-mail: phrma@msljapan.com